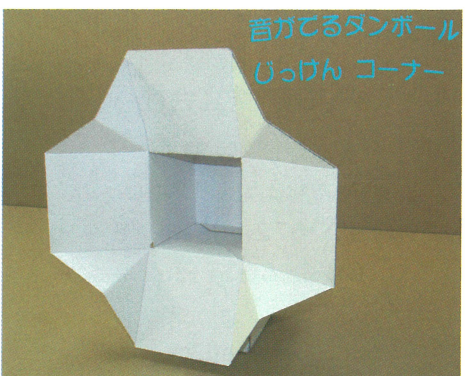


東洋紙工 株式会社

地域貢献からCAD試作機のアイディアが誕生 ダンボールの新たな可能性に挑み続ける



事業内容

堅実経営を続ける産業用ダンボールメーカー

産業用・緩衝材用ダンボールをはじめとした紙器類の製造を行う。従来より設備面の充実には特に注力し続け、外装箱から内箱までを社内で一貫製造できる生産体制を確立してきた。ユーザーからの細かなニーズに対して、これらの最新設備を駆使して迅速な対応を心掛けてきたことから、地元・四條畷市に拠点を持つ優良企業を中心に強固な顧客基盤を構築、これまで安定した業績を記録し続けてきた。

ところが近年、同社周辺のエリアにおいて複数の大手家電メーカーの工場が撤退してしまったため、同社への産業用・緩衝材用ダンボールの発注は減少傾向に。そこで同社では今後の新たな事業の柱を生み出すべく、数年前よりダンボール材を利用した新製品の開発に着手している。

補助事業

周辺環境の変化に伴い“脱下請け”を目指す

1977年に大阪市内から四條畷市へと本社を移転して以来、地元への地域貢献を積極的に進めてきた同社。市内に同業のダンボールメーカーが少なかったこともあり、幼稚園や小学校に工作用ダンボールを提供する機会が多かった。その際、そのままダンボールを渡すのではなく、ちょっとした加工を施す場合もあったといい、新製品の開発に際してはこの経験が大きな役割を果たすことになった。“脱下請け”を主眼に開発方針を「ダンボールを使用した「箱」以外のもの」と定め、その結果「ダンボールめいろ」など、ダンボール紙の特性を活かしたさまざまな製品を考案するに至った。

そんな同社だが、製品開発を続けるうちに、ある問題に直面することになる。それは商品試作の全工程を、従業員がすべて手作業で行わねばならないというものだ。アイデアの実現に試行錯誤するだけでも非常に大きな手間が掛かり、さらにプロトタイプ製作を外注していたため、そのやり取りでさらに数日を要してしまう。そこで同社では本補助事業を利用して、自社でCAD設計ができる試作機の開発に挑戦することにした。

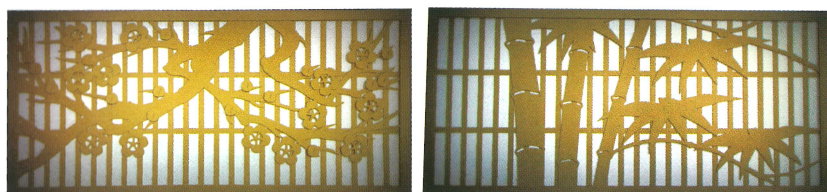


成果

新試作機の導入により作業効率がアップ

自社での試作機開発については以前にも検討したことがあったそうだが、機械の導入によってどの程度の効果があるのかが予想できず、投資に踏み切ることができなかったという。今回、補助事業を利用して実際に試作機を開発・導入したところ、想定内外の数多くのメリットを感じることができた。すべてを自社で行えるようになったことで、問い合わせが来てから試作までの時間を大幅に短縮でき、完成した試作品の微調整も効率的に行えるようになった。さらに、従来はこれらに要していた従業員の工数を他の業務にあてることができるようになった。

現状、新たな試作機稼働の70%程度は従来の箱の試作に使用されている。前出のように“脱下請け”を図る同社では、残りの30%にあたる箱以外の製品の開発に今後さらに注力していきたい考えだ。新商品アイデアの質向上や試作サイクルの時間短縮により、より多くの受注へとつなげていきたいという。



今後の展開

ダンボールの可能性を切り拓いていきたい

試作機の導入を通して、産官学の連携を含む他企業とのコラボレーションがよりスムーズになったと感じている。従来より近隣のクリエイターなどと協働してワークショップなどを開催してきたが、今後もより多様な企業・団体と力を合わせてダンボール製品の共同開発や販路開拓を進めていきたいとのことだ。

また一連の新商品開発のなかで、ダンボールというエコ素材が文具や画材の分野でも非常に有用であることがわかってきた。現在、画材販売会社を通した「ダンボール製紙芝居キット」の販売、元大阪電気通信大学教員との共同開発による「ダンボールスピーカー」の開発・販売、インテリア製品の開発などが進行中。2015年8月には、大阪工業大学オープンキャンパスにて知的財産学部と協働で「ダンボール欄間」も製作し、この分野での事業展開も積極的に加速させていきたいという。

これまでは産業用ダンボールメーカーとしてBtoBの世界しかわからなかったという同社。“脱下請け”への方針転換と今回の試作機の開発によって、思いがけないところにダンボールのニーズが潜んでいることを発見したようだ。

今後も異業種とのコラボレーションを通して、ダンボールの可能性を広げていきたいと意気込んでいる。

想像力を豊かにすれば
まだまだ広がる
ダンボールの世界!

代表取締役社長 田村 耕作

エコ素材ダンボールを活用し新たな価値を創造します。

先進の加工機械と蓄積されたノウハウを基に、さまざまな分野とのコラボレーションによりオンリーワン&クールジャパンな製品開発を目指しています。民産学官の連携取組みによってカタチとなった製品はきっと地域活性化や豊かな社会づくりに貢献できると信じています。

今後とも応援よろしくお願い申し上げます。

もちろん既存事業のパッケージ企画開発にも新型マシンは大きく寄与しており、お客様へのスピーディーな提案を実現しております。



東洋紙工 株式会社

代表取締役社長 田村 耕作

四條畷市中野491

TEL : 072-878-5541

〈資本金〉10,000千円

〈従業員〉24人

<http://www.toyoshiko.jp/>